

<参考 1>山菜等の栽培技術の研究開発の目的と経緯および研究成果

(目的)

県では、独自性のある山菜等の栽培技術について研究し、その結果を普及することで山村の活性を図る。

(経緯)

- ・平成 25 年度 : 山菜等の探索と栽培技術の研究を開始
- ・平成 27 年度 : 東北や東日本地域では有名な山菜のうち 3 品種を選抜  
行者にんにく、シオデ、ナルコユリ
- ・平成 30 年度 : 県内モニター栽培者と栽培地の設定 3 名 7 個所、約 100 m<sup>2</sup>
- ・令和 2 年度 : 県内モニター栽培者と栽培地の設定 1 名 1 個所、約 1 m<sup>2</sup>
- ・令和 3 年度 : 県内モニター栽培者と栽培地の設定 2 名 2 個所、約 10 m<sup>2</sup>

(研究成果)

「行者にんにく」

- ・冷涼な環境を好む
- ・標高が 300m 以上の場所で遮光などの日照の調節をすれば栽培可能

「ナルコユリ、シオデ」

- ・県内各地に自生しており栽培は容易

※東日本地域の販売価格 : 100gあたり 平均 700 円

<参考 2>それぞれの中山間チャレンジプロジェクト

中山間地域のそれぞれの集落や産地が主体的に行う課題解決策の検討や目標の実現に向けた取組に対して、県や市町などの関係機関が一体となって集落や産地を支援することにより、農業・農地の維持や農業所得の向上を図っていくための事業。令和 3 年度末現在で県内で 46 地区のチャレンジ集落・産地を選定して活動している。